

# 2022年度 活動報告



NPO法人そらいろコアラ



Web版



# はじめに

## そらいろコアラとは

私たちは、妊娠・育児期家庭への包括的・長期的な支援によって、誰もが健康で、安全に、安心して生活できる社会の実現と、虐待などの不適切な養育とその連鎖を止めることを目指す、NPO法人です。

医師や助産師、看護師、社会福祉士、保育士、弁護士など、医療・福祉の専門家を多く含む多職種チームで、自治体や医療機関、民間団体等と連携しながら、「地域で子育て」をサポートする支援ネットワークづくりにも寄与しています。

## 団体名の由来・構想

団体名の「コアラ」には、困っている声をキャッチして、安心・安全な居場所や支援につなぐ「ポケット」をつくりたいという思いを込めています。

団体内に医療従事者が多いことを生かし、医療現場と連携した民間の居場所（「ポケット」）をつくることで、子どもたちや親御さんに安心・安全な居場所を提供し、虐待などの不適切な養育とその連鎖を予防する構想をもっています。

## 2022年、各事業の充実と連携強化

栃木県真岡市に拠点を構えて開始した、子どもや妊産婦さんの居場所「そらいろポケット」。特定妊婦や要支援児童をはじめ、孤立しやすくニーズのある家庭にいかにつなぐかがコロナ禍の引き継ぎの課題である中、子ども食堂や地域イベントの実施、LINEでのコミュニケーション、SNSでの周知、行政と連携した物資提供や自宅訪問の実施などを通じ、目の前の家庭や、市の保健師さん、地域のボランティアさんや民間の支援団体の方々に学びながら、工夫と模索を続けました。

妊娠・出産・子育ての無料LINE相談『コアLINE』は栃木県全域/全国で登録者数・相談件数が増加。2022年度は365日無休で開所し、LINE登録者数967人、364件の相談に対応しました。

その他、変化するコロナ禍の課題やニーズを把握し支援につなげるために、「外国ルーツをもつ家庭のニーズ調査」、ならびに、県内の多胎児サークルと共同で「多胎児家庭のニーズ調査・提言」を行いました。

## 2023年に向けて

活動4年度目となる2023年は、栃木県真岡地域での子育て支援を団体の「真岡モデル」と位置づけ、自治体・民間・医療機関らとの連携をさらに深めながら、妊娠・育児家庭の孤立、不適切な養育と、その世代間連鎖の予防を目的に、要支援家庭のニーズに応じた支援を行います。

また、LINE相談や、家庭訪問と物資提供、子ども食堂、地域イベントなどによるアウトリーチを通して、ニーズの発見と、地域の子育てコミュニティづくりにも引き続き貢献したい考えです。

栃木県全域を対象とする妊産褥支援事業では、妊娠・出産・子育ての無料LINE相談窓口「コアLINE」の運営を積極的に継続し、支援連携ネットワークの充実と、相談員体制の拡充に努めるとともに、県内での窓口周知を進めます。

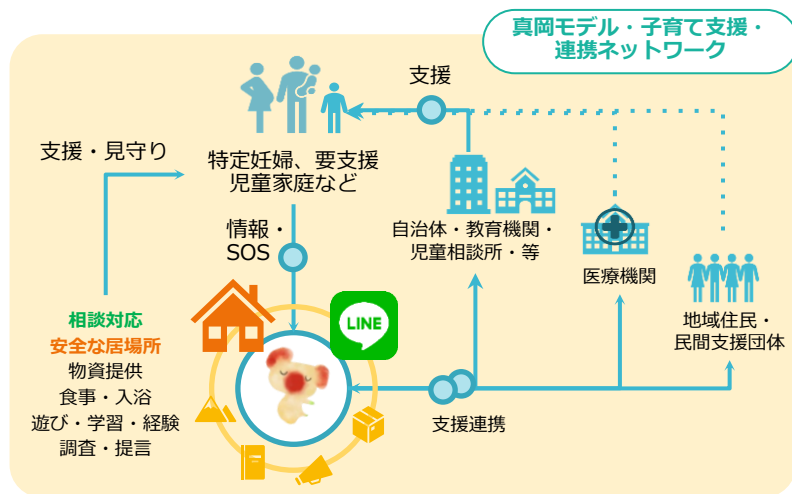
私たちの活動は、日々の活動を担ってくださるスタッフ・ボランティアの皆さん、活動を物資・資金面から支えてくださる支援者の皆さん、そして、団体の活動に参加くださるすべての方に支えられています。今後とも、お力添えのほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2023年5月

NPO法人そらいろコアラ

共同代表理事 増田 卓哉、鳥飼 蓬子

# 「コアラのポケット」モデル まとめと展望



## ケース事例：

医療機関が**育児ハイリスク**と判断し、地域行政支援を受けるように提案したが、同意を得られなかった妊産婦家庭。代わりに紹介した「コアLINE」に体調の相談があったことをきっかけに、真岡の居場所「ポケット」に繋がる。信頼関係を築きながら行政サービスの利用を促したり、その後自治体・医療機関と連携しながら、不適切な養育が起きないように伴走していく。

## 出産前から、孤立を防ぐ

令和3年度の全国の児童虐待相談対応件数は20.7万件と過去最多となり、心中以外の**虐待死の3人に2人が0歳児**です。虐待死事例には、予期しない妊娠や貧困、養育者の精神疾患や抑うつ状態等の傾向がみられ、育児に困難を抱えやすい背景をもつ女性が**周囲から孤立し、必要な支援に繋がらないまま出産に至る可能性**が示唆されています。さらに、長期化するコロナ禍に「産後うつ」のリスクが増加しているとする調査も複数あり、虐待とその世代間連鎖を防ぐためには、**妊娠前からの切れ目のない支援と、アウトリーチによる孤立予防**が、よりいっそう必要です。

## 身近な手段で声をひろい、支援に繋げる

私たちの「真岡モデル」は、「助けてもらったことがない人は、自ら助けてと言えない」ことを前提に、小さな声でも必要な支援に繋がるように、年中無休のLINEでの相談窓口や、物資提供、子ども食堂（宅食）や地域イベントなど、**利用者の目線でハードルの低い手段**を工夫しながら、妊娠・育児期の**SOSの早期の発見と、適切な支援への連携**によって、虐待をはじめとする不適切な養育を予防します。

## 自治体・医療・地域団体と連携

2021年に開始した栃木県真岡地域での支援事業「**そらいろポケット**」では、特定妊婦・要支援妊婦や要支援児童とその家庭など、孤立しやすく周囲から支援が得られにくい家庭を対象に、妊娠期、育児期を安心して楽しめるよう、また生まれる子どもへの適切な養育ができるよう、個々の家庭のニーズに応じて、相談対応や物資提供、食事や居場所の提供等を行っています。支援につながった家庭には、医療機関未受診での飛び込み分娩や、若年妊娠、外国ルーツの困窮家庭、養育者の精神疾患、児の発達障害等、周囲の支援につながりにくく、不適切な養育に陥るリスクの高い家庭を多く含みます。2020年に開設した妊娠・出産・子育てのLINE相談窓口「**コアLINE**」への相談をきっかけに支援ニーズがわかり、自治体の支援につながったケースや、市の要対協ケースの家庭に対して長期の見守りを行い親子と信頼関係を構築しながら、市・医療機関・他支援団体等と連携し、他の社会支援の前向きな利用を促し、実際にサービス利用に至ったケースも増えています。

## 2023年度の展望

今後は、(1)各家庭のニーズに沿った細やかな支援で、コアラが支援に関与する価値を高めることと、(2)自治体・医療・地域団体との連携の強化、(3)コアLINE・そらいろポケットの周知向上と、(4)持続的な財源や運営体制をつくることを目指します。

## そらいろコアラのミッション



妊娠・育児の孤立を防ぎ、  
不適切な養育と、その連鎖をとめる

出産前から家庭とつながり、育児中の孤立を防ぐことや、行政・医療機関と連携して継続的に家庭を見守ることを通し、虐待をはじめとする不適切な養育とその世代間連鎖をとめることを目指します。

情報発信やイベント、育児用品等の循環の仕組みづくりを通じて、地域全体で子育てを循環させる社会を醸成します。

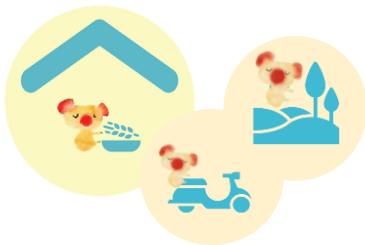
## 2022年度の活動ハイライト

1



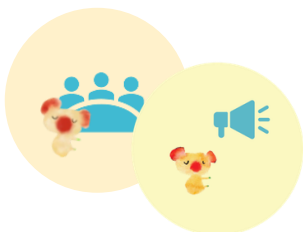
妊娠・出産・子育ての無料LINE相談  
『コアLINE』、**栃木県全域/全国で、**  
登録者数・相談件数増加

2



居場所づくり、子ども食堂、物資提供  
『そらいろポケット』、**真岡市での活動を拡**  
**大・充実**

3



**自治体、医療機関、民間機関との連携強化**  
LINEや居場所、自宅訪問等、ニーズに沿って  
見守り・連携（**真岡市ほか栃木県全域**）

# 2022年度活動概要／目次

- はじめに (p.2)
- 事業モデルと、展望 (p.3)
- 団体ミッションと、活動ハイライト (p.4)
- 妊娠・出産・子育ての無料LINE相談「コアLINE」 (p.6)
  - ・ 開所日数：365日
  - ・ LINE登録者数：967人
  - ・ 相談件数：364件
  - ・ 支援連携：37件（直接連携9件）
- 妊産婦と赤ちゃんの居場所「そらいろポケット」 (p.8)
  - ・ 開所日数：64日
  - ・ 延べ利用人数：223人
- 子どもと親の居場所「そらいろポケット」 (p.9)
  - ・ 開所日数：101日
  - ・ 延べ利用人数：323人
- 地域子ども食堂「コアラ食堂」 (p.10)
  - ・ 実施回数：13回
  - ・ 食事提供：329食
- 物資提供 (p.11)
  - ・ 継続支援家庭：16家庭
  - ・ 利用延べ件数：34件
- 子ども体験イベント「そらいろKid'sクラブ」 (p.12)
  - ・ 開催回数：10回
  - ・ 延べ参加者：378名
- 包括的性教育 (p.6)
  - ・ 講座実施：2回
- ニーズ調査 (p.14)
  - ・ 多胎児妊娠・育児家庭のニーズ調査
- 啓発・発信事業 (p.15)
- 会計報告 (p.16)
- 応援メッセージ (p.17)
- 助成金のお礼 (p.18)
- ご支援のお礼 (p.19)
- ご支援のお願い (裏表紙)



# 妊娠・出産・子育ての 無料LINE相談「コアLINE」

相談件数  
**364**  
件

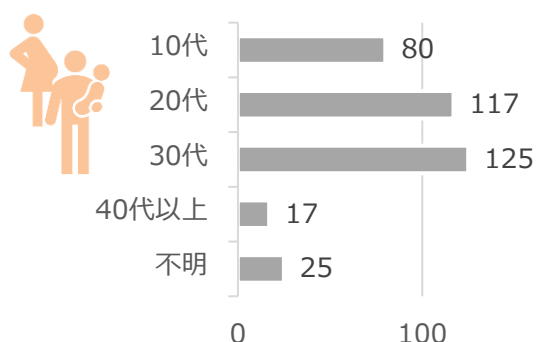
( )内は前年度比

## コアLINEとは

妊娠・育児のSOSを支援に繋げ、虐待やその連鎖を予防すること、妊産婦や親の安全・安心な居場所をつくることを目的に、助産師・医師・社会福祉士・保育士等の多職種チームが、妊娠・出産・子育ての相談に無料でLINEでお答えします。必要に応じて関係機関と連携し、育児用品の提供も行います。

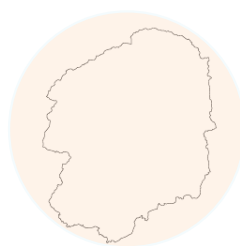
- 窓口開所日数：365日
- LINE登録者数：967人 (+521人)
- 相談件数：364件 (+143件)
- 支援連携：37件  
(うち直接的な連携9件)

## ■ 年代



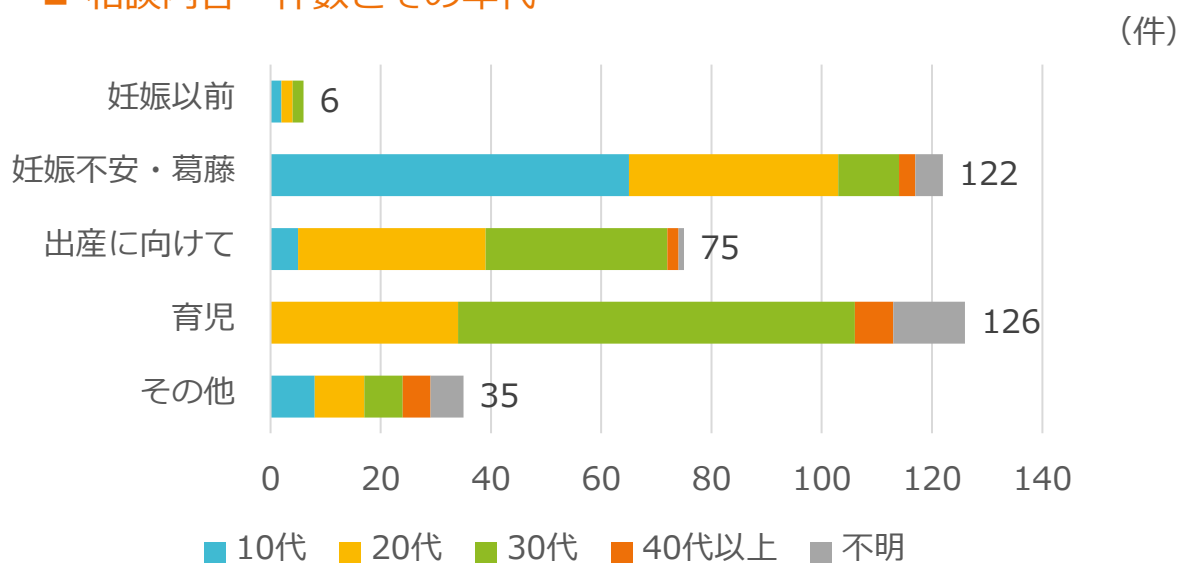
相談者の年代は、10-20代が半数以上

## ■ 居住地



- 栃木県：92件 (+8件)
- 栃木市：34件 (-8件)
  - 宇都宮市：17件 (+3件)
  - 真岡市：15件 (+7件)
  - 小山市：15件 (+6件)
  - 足利市：3件 (+2件)
  - その他市町：11件
- 栃木県外/不明：272件 (+148件)

## ■ 相談内容・件数とその年代



- 相談内容は、**育児相談**が最も多く、**妊娠不安・葛藤**がそれに続く
- 年代別で見ると、「妊娠不安・葛藤」はほとんどが10-20代。「出産に向けての相談」と「育児相談」は、20-40代と幅広い



## ■ 相談支援からみえてくること

妊娠期間中や子育て中の方からの相談の中には、「生まれてくる子どもを、愛したり育てていける自信がない」「子育てに疲れ、手が出てしまいそうになる」などの切実な声もあります。私たちは、コアLINEを通じてこうしたSOSの声とより早期に繋がるのが、妊娠・育児期の孤立を防ぎ、虐待を予防することに繋がると信じて活動しています。

## ■ 抱える課題 と「孤立」

- 親と不仲 / 親を頼れない
- パートナーの無理解
- 人との交流が苦手
- 精神疾患や発達障害
- 経済的な貧困
- 不登校
- 周囲に相談できる人がいない
- 児童養護施設で話せる大人がいない
- 引っ越したばかりで知人がいないなど

■ 市の保健師さんや、医療機関、医療ソーシャルワーカーさんからの紹介で、コアLINEに繋がることが増えています。不安が強いケースや、親やお子さんに精神疾患や発達障害のあるケース、家族の支援が得られないケースなど、妊娠期から、出産後まで、複数回にわたって相談やコミュニケーションが続いている例も多くなってきました。

■ 特に10代・20代の若年者からの相談では、相手のコミュニケーションスタイルや文章の理解力等にあわせて、時には短文のメッセージのやりとりを何度も続けながら、少しずつ情報提供や情報収集をしています。妊娠不安の相談では、付近の医療機関や、受診の方法、受診した際に伝えることなどの整理を手伝い、数日後、1週間後、と様子を伺う声かけをしながら、孤独や不安に寄り添います。

■ 30代以上の方からの相談も多く、乳幼児への心配事や、出産への不安、思春期の子どもへの接し方など、内容も多岐にわたります。誰にも相談できずにご自身が体調を崩されているケースもあり、気持ちに寄り添いながら問題解決のお手伝いをしています。

## ■ コアLINEの特徴



**24時間、365日無料**  
のLINE相談

**妊娠から育児相談まで**  
長期にわたってケースを見守れる

**専門も年齢も多様な相談員**  
多角的な視点での寄り添いが可能

**関係機関と連携**  
しながら見守りできる

## ■ 周知協力

団体SNS等での周知の他、県内の賛同施設に、案内カードやチラシ、ポスター、ステッカー等を設置いただいたり、市の窓口で直接手渡していただく等の周知協力をいただいています。

- 市町窓口、社会福祉協議会
- 児童相談所、自立援助ホーム
- 医療機関、民間支援団体
- 児童家庭支援センター
- ショッピングセンターやカフェなど商業施設
- 大学や高校、図書館、保育園など



## 妊産婦さんと赤ちゃんの居場所

特定妊婦をはじめ、周囲に支援者が少なく孤立しやすい妊産婦さんとその赤ちゃんを対象に、週2回、昼間に居場所を開き、妊娠期から産後までを継続して見守れる居場所づくりを行っています。

心理的安全・安心の醸成や、信頼できる人間関係づくり、助産師による相談対応・アドバイスの他、必要に応じて医療機関や行政機関等とも連携します。

開所日数

64日

延べ利用人数

223

人



本年度は、64日居場所を開所し、のべ223名が居場所を利用しました。

孤立してしまいがちな妊産婦さんが、**妊娠期・育児期を楽しめるよう**、また生まれた後も子どもへ**適切な養育**ができるよう、出産準備のサポートや、出産後のフォローまで、**居場所**や**LINE窓口**、**自宅訪問**等を通じて、相談対応を行いました。

妊産婦さんや赤ちゃんが安心して  
すごせる居場所づくり



**真岡市こども課**や、**地域の医療機関**から紹介を受けて居場所に繋がるケースのほか、LINE窓口や利用者さん同士の口コミをきっかけに居場所に繋がり、居場所利用の中でニーズがわかって自治体と連携するケースも。該当する市役所内の課担当者を交えて、ケース会議を開くこともできました。

個々の相談や訪問は、**助産師・看護師・社会福祉士**や**管理栄養士**などの**専門職チーム**が対応。コロナ対策やプライバシーの配慮から1対1で、抱っここの方法など、具体的なアドバイスしています。



### 利用者さんから

コアラさんは実家みたいで落ち着く。ゆっくり食事が出来たり、話を聞いてくれて、コアラさんがいてくれるから生きれているようなもの。

ゆっくりできるところが  
あって嬉しい

週末に遊びにいけるところが  
あって、ありがたい

### エピソード：

真岡市内の病院にかかっていた特定妊婦のSさん。行政の訪問には抵抗があり、医療ソーシャルワーカー（MSW）の紹介で、LINE相談「コアLINE」に登録。その後、コアLINEへ相談があったことをきっかけに、「そらいろポケット」へ引き継いで、助産師・看護師のスタッフが自宅へ訪問。授乳やだっこについて等、本人と話をしながらアドバイスをしました。

一人での育児で辛くなるときには「そらいろポケット」、日々の相談は「コアLINE」で対応しながら見守っています。



# ポケット

## 子どもと親の居場所

子どもたちが安心して過ごせる「ポケット」をつくりたい、という思いから生まれた真岡市の居場所。要支援児童やその養育者など、孤立しやすく周囲の支援を得にくい家庭や児童を対象に、個々のニーズに応じた居場所づくりを行っています。遊びや食事、送迎、入浴、学習、季節のイベントや畑体験等も。

開所日数

101  
日

延べ利用人数

323  
人

本年度は、101日居場所を開所し、のべ323名が居場所を利用しました。

コロナ対策のために1回につき1~2家庭の予約制になっていますが、**食事**をしたり、**入浴**をしたり、地域の方の**畑**に行き、とうもろこしやさつまいもを取らせてもらったり。**送迎**もはじめ、お子さんだけの利用も可能になりました。それぞれの家庭のニーズに合わせて、柔軟に対応しています。先日は、なかなか家から出てこれなかったお子さんが、ついに居場所に来てくれる嬉しい出来事も！スタッフも養育者さんも、一緒に喜びました。

日々の居場所は、**社会福祉士**や**保育士**、**管理栄養士**のスタッフと、地域の**ボランティア**さんが対応。自治体や民間団体等と連携して家庭を見守り、**行政等の社会支援の前向きな利用も促**しています。子ども食堂や地域の親子向けイベントの実施を通して活動の周知に努め、アウトリーチでの対象者の発見や、地域の子育てコミュニティ形成にも寄与しています。

### エピソード

今年が**七五三**だったRくん。親御さんから「今年は何もできない。本当は写真くらいでもしてあげたいんだけど」と聞き、スタッフの声掛けで**お祝いプロジェクト**発動！ボランティアさんによびかけて、ぴったりサイズのスーツをお借りし、当日は居場所でお祝いランチをしてから、大前神社へ。千歳飴と一緒に記念写真パチリ。節目をお祝いしました。

後日、市の相談員さんから、親御さんが撮った写真を窓口へ見せに来てくれたと嬉しいお知らせ。Rくんも、「**神社にいけて楽しかった**」と話していたそう。



外遊び

収穫体験



中遊び



「しゅくだい」



食事



# 地域子ども食堂 「コアラ食堂」

実施回数

13回

食事提供

329食

2021年7月にスタートしたコアラ食堂も2年目！今年度も毎月第4日曜日の実施を継続し、延べ329食の栄養満点の食事を提供しました。

コロナで食数の制限もある中、妊娠・子育て家庭の孤立予防や、食育による健全な育ちのサポートだけでなく、居場所「そらいろポケット」など支援の利用のきっかけづくりなど、アウトリーチに寄与しています。

- 実施回数：13回
- 延べ利用者：329名
- 延べボランティア：122名

月に1度のコアラ食堂。コロナ対策のため今年度もテイクアウト形式で、手作りの温かな食事を持ち帰ってもらったり、お家へお届けしたりしました。食堂の利用や、お家へのお届けをきっかけに、家庭の様子を話してもらったり、居場所「そらいろポケット」の利用に繋がるケースも増えました。ライフラインが止まっているなど、具体的なSOSのキャッチに繋がったケースもありました。

年度後半は、市の保健師さんの紹介等で食堂利用の希望も増え、食数制限の上限に達することも多くなったため、コアラ食堂以外の日を案内して居場所に来ていただくなど、継続して繋がれるように工夫しています。

また、地域の方々や農業協同組合の方々が新鮮な野菜や果物、お米、パンなどを寄付くださり、提供できる食事もさらに美味しいものに。地域の方々との交流やボランティアさんの輪も少しずつ広がっており、感謝です。

## 今年度実施記録

	利用者数	ボランティア数
2022/4/24	22	7
5/22	24	11
6/26	26	10
7/24	28	9
8/28	28	9
9/25	28	9
10/30	19	10
11/27	28	8
12/25	37	11
2023/1/22	21	11
2/26	30	11
3/26	31	13
3/29	7	3

## 利用者さんから

子どもの偏食がひどくて不安いっぱいでしたが、お弁当を頂くようになり、野菜が食べられたり、食べることから何か前向きになれているようでとても感謝しています。

久々に家族で食卓を囲めました



旬の食材を生かした食事は、栄養満点！  
離乳食やアレルギーにも対応しています。



助成金やご寄付、心強いボランティアさんのサポートで成り立っています。

## サポートありがとうございます。

真岡市子ども家庭課、真岡市社会福祉協議会、コラボレーもおか、こども食堂サポートセンター・とちぎ、キッズハウスいそどり、みんなの台所、他 多数の方々（助成金・寄付ページ参照）

# 物資提供

継続支援家庭

16件

物資提供

34件

コロナ禍で、ニーズのある家庭と繋がるきっかけとなった物資提供。今年度は、物価高や雇用状況の悪化、継続支援家庭の増加等により、提供件数も増えました。移動や言語のバリアから、居場所へ繋がりにくい外国ルーツの妊娠・育児家庭とも、食料やおむつ・ミルクの提供から、関係づくりをしています。

- ・ 継続支援家庭：16家庭
- ・ 利用延べ件数：34件
- ・ 真岡市こども家庭課との、日常的な連絡・連携
- ・ 妊娠・育児用品・食材・日用品など、ニーズに併せて柔軟に提供

支援対象には、困窮・孤立した妊娠期・育児期の家庭や、外国ルーツの家庭で乳幼児を抱える家庭が複数含まれています。昨年度から継続しての支援の広がりからは、自治体が提供できる支援に限界がある中で、これまでは他の社会資源を活用できずに埋もれていた家庭があったことが示唆されます。

提供物資は、食料や日用品の他、お子さんの月齢等に応じたミルクやおむつ、生理用品や避妊具など、対象家庭に応じて多岐にわたります。特にミルクやおむつなどの育児用品は、県内のフードバンク等でも寄付が集まりにくく、ニーズが高いことが分かりました。2022年度からは「こどものフードバンク」と題し、コアラでも寄付を募って必要な家庭に届ける活動を開始しています。

物資提供時は、**社会福祉士や助産師のスタッフ**が対象者の自宅に訪問。**真岡市の保健師さんの紹介**を受けて訪問に同行し、直接ご家庭のニーズを伺いながら、物資提供やLINE相談など、団体のその他の支援に繋げるケースも増えています。

一方、利用者さんと依存関係にならないよう、こまめにコミュニケーションを取る、居場所への来訪やイベント参加を促すなど、関係づくりを意識しながら、助けを求めやすい関係構築や、他支援機関と連携しての見守りの体制を整えています。



## こどものフードバンク (ふれあい・たすけあいコーナー)



### ●こどものフードバンクに寄付しませんか？

この活動は、「地域で子育て」を目指し、不要となったものや主旨への賛同からの寄付を受け、お困りの子育て家庭などに無償で提供するものです。

#### <欲しいもの>

・ミルク ・オムツ ・おしりふき ・お菓子 ・飲料（スポーツドリンクなど）  
・絵本 ・学習用品 など

※食品は、常温で保存ができるもの、賞味期限が1カ月以上のもの  
※開封したものや冷凍、冷蔵が必要なものは受け取りをご遠慮させて頂いております。

### ●ふれあい・たすけあいコーナーに参加しませんか？

※そらいろKIDSクラブのイベント時に毎回OPENします。

子どもが大きくなって使っていない、買ったけど結局使わなかったものなど、そのご家庭ではお困りのないものを必要としているご家庭へ循環させる、お互いさまのコーナーです。

#### <求めているもの>

これは子育てや子どもの活動上で、まだまだ使える、捨てるにはもったいないもの。  
(本、絵本、学習用品、おもちゃなど)

#### <物々交換>

集まったものの中から、我が家が必要なものがあれば、持ち帰って頂く。

新企画でどんな感じがまだわかりませんが、“これはどうかな？”と思うものがあれば、一度お持ちくださると嬉しいです。そのまま持ち帰り頂くこともあるかもしれませんが、参考) 現在あるもの ランドセル2個、絵具セット2個  
※いずれもあまり使用していない状態の良いものがあります

なお、寄付などで頂きました品物が、当団体のキャバ（保管等の対応）オーバーになりましたら、連携する他の子育てで応援するNPO等の団体に回させていただきます。

NPO法人そらいろコアラ  
sorairokoala.pocket@gmail.com 070-8933-3314

ミルクやおむつ、おしりふきといった育児用品は、ニーズが多くあるものの、既存のフードバンク等では寄付が集まりにくく、コアラの活動課題でした。「こどものフードバンク」では、ミルク・おむつや子ども服、絵本・学習用品・おもちゃなど、寄付をつのって、必要なご家庭にお届けしています。「こんな制服」など、依頼を受けて地域の方に呼びかけ、実際に見つかることも。ご協力に感謝です。(寄付は常時受け付けています！)

# 子ども体験イベント 「そらいるKid'sクラブ」

開催回数

10回

延べ参加者

378名

延べボランティア

148名

地域のボランティアさんチームが中心になって企画・運営くださった、親子参加型のイベント「そらいるKid'sクラブ」。自然、文化、社会、学習、スポーツなど体験イベントを通して、子どもの「経験の貧困」の解消のほか、高校生や地域のボランティアが関わる場として、地域の子育てコミュニティづくりにも寄与しています。ハイリスクだが行政につながり難い家庭が、オープンで気軽な体験イベントをきっかけに伴走支援につながる、アウトリーチの機能も。



伊勢崎のおばあちゃんを特別ゲストに  
みんなで“炭酸まんじゅう”づくり！



紙粘土や絵の具を使った惑星モビール作りと、  
真岡市科学教育センターでプラネタリウム

## 今年度実施記録

### 4/16「森の材料でネイチャークラフト&駄菓子屋さんごっこ」

利用者50名、ボランティア17名

### 5/8「炭酸まんじゅうをつくらう&ライアー演奏会」

利用者55名 ボランティア25名

### 6/11「真岡の伝統工芸ものづくり現場見学&クリーン作戦」

利用者25名 ボランティア10名

### 7/9「プラネタリウムで真岡の星空観察&星空工作」

利用者73名 ボランティア20名

### 8/6「流しそうめん風 お菓子流し」

利用者13名 ボランティア4名 ※

### 9/17「栗ひろい」

利用者36名 ボランティア10名※

### 10/8「ハロウィンSDGs ランタンづくり」

利用者11名 ボランティア7名

### 11/12「色んな紙ひこうき工作ワークショップ」

利用者35名 ボランティア15名

### 12/10「クリスマスネイチャークラフト」

利用者25名 ボランティア10名

### 3/12「モルックで遊ぼう&焚火と棒パンづくり」

利用者55名 ボランティア30名



ハロウィンに、牛乳パックやペットボトルを使って、オリジナルランタン作り



松ぼっくりやどんぐりなど森の素材でオリジナルのクリスマスツリー

## SPECIAL THANKS

ふれあいの森 伊勢崎、ボランティアの皆さま

※コロナ感染拡大規模縮小

# 包括的性教育

妊娠・出産・子育てのLINE相談窓口「コアLINE」を通じて若年女性を含む妊娠期の方々と話をする中で、**SOSになる前から、性に関する必要な知識をもつこと**、そして、**困った時の相談先を知っておくこと**が、予期せぬ妊娠や、妊娠期・育児期の孤立を防ぎ、妊娠や生殖を自分の意思で決めるために必要だとわかりました。相談対応から見える気づきを生かしながら、そらいろコアだからこそできる「**包括的性教育**」を進めています。

## 2022年度性教育講座実績

11月：小山工業高等専門学校  
「性教育に関する講座」  
参加者：約200名

3月：小山工業高等専門学校  
「性教育に関する教職員との知見共有・交流会」  
参加者：約30名

## 大人・養育者向け

小山工業高等専門学校の教職員スタッフの方々を対象に、性教育に関する知見共有会を開きました。私たちの運営するLINE相談窓口「コアLINE」を通して、妊娠・出産に関する質問へのアドバイスも行っている産婦人科医や看護師スタッフが出向き、「ジェンダーや多様性に関連して、大人からどのような声かけや関係構築が有効か」など意見交換を行いました。

### 主な内容：

- 子どもたちが、自分の大切さを理解し、健康な生き方について考えられる環境づくりとは
- 基本的な知識(避妊、中絶、妊孕性、出産について)を知り、将来の自分の生き方を選べるようになるために、大人はどのような声掛けやサポートができるか
- 子どもの権利条約、人権を基本とした、ネットとの付き合い方、身体との付き合い方、ジェンダーや多様性、人間関係とは
- ジェンダーや多様性に関連して大人からの声かけや関係構築の仕方とは

## 若年向け

小山工業高等専門学校での講座では、「こんなとき、どうする?」と題して、具体的なケースをあげながら、性的同意や、避妊について、デートレイプ、性感染症などについて話をしました。

人権を基盤とした生殖に関する知識や多様性、コミュニケーション、ネットの使い方などについて必要な知識・考え方を伝えました。



# 多胎児妊娠・育児家庭のニーズ調査



日本の分娩件数の約1%を占める多胎児は、単胎児に比べて追加の医療的ケアが必要になりやすいことに加え、同時に2人以上を出産・育児をすることに伴う養育者の身体的・精神的・経済的な負担が課題です。多胎児を抱えての**外出の困難や情報不足**から、**地域社会からも物理的・社会的・精神的に孤立しやすく**、多胎育児家庭の虐待死は単胎育児家庭と比べて2.5～4.0倍高いといわれています。一方、栃木県内での多胎児家庭へ特化した支援は限定的であり、ファミサポ（子育て援助活動支援事業）などの既存の育児支援は多胎児家庭のニーズに沿っていないケースもあります。そこで、栃木県内で活動する多胎サークル、さくらんぼ小山会さん、ふたご@鹿沼と合同で、多胎児家庭のニーズ調査を行いました。



▲フルレポートはこちら

## ■ テーマ

- ・ 栃木県が多胎児家庭の、妊娠期・育児期におけるニーズを理解する
- ・ 多胎児家庭も利用しやすい育児支援を考え、育児負担を減らす仕組みを作る

## ■ 手法

- ・ 全国事例の文献調査
- ・ 外部団体ヒアリング
- ・ 県内多胎児家庭へのウェブ調査 (n=59)
- ・ 深堀インタビュー (5件、7名)
- ・ 県内多胎ピアサークル間の連携・情報共有会
- ・ 円卓会議 (※2022年5月実施)

## ■ 主催：

- ・ NPO法人そらいろコアラ、
- ・ 多胎サークルさくらんぼ小山会、
- ・ ふたご@鹿沼

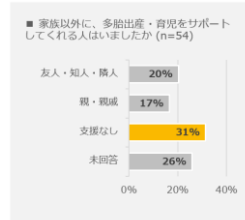
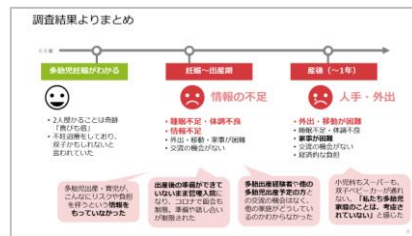
## ■ 協力（順不同、敬称略）

- ・ 県内多胎児妊娠・育児中家庭（有志）
- ・ 栃木県・市町母子保健担当課
- ・ 獨協医科大学病院、自治医科大学附属病院
- ・ 栃木県助産師会
- ・ 民間支援団体（NPO法人子育てほっとねっと他）
- ・ 全国多胎ネット・県外多胎サークル
- ・ ZSアソシエイツ

## ■ 調査結果（一部抜粋）

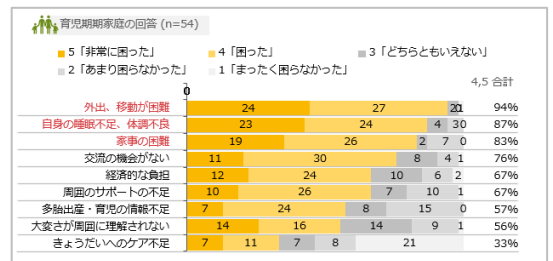
### ● 多胎児妊娠期間中は情報不足とそれに伴う準備不足が課題

- 多胎児育児書が少ない、県内で使える支援や必要な手続きについて情報が得られないまま、何等かの異常で管理入院へ



### ● 多胎児出産後は、人手不足と外出・移動の困難が、特に大きな課題

- 多胎児出産後は、95%以上の家庭が、外出・移動の困難を課題にあげる
- 家族以外のサポートがない状態で育児を行った家庭が3割を占める



### ● 多胎児家庭への支援として、以下が求められる

- **市町**は国の予算を活用した多胎児支援の拡充（検診時のサポートの導入や一時預かり、保育園の優先、産後ケアの割引など）
- **医療機関**は入院期間中の、産前・産後の心身の体調管理や育児プランに関する情報提供、
- **ピアサークル**は、県内の支援や情報の一元化や、多胎サークルの拡充、自治体が多胎支援事業を検討する場合の助言・サポート



# 啓発・発信事業

講演実施

9回

メルマガ配信

12回

## 講演・発信実績

### そらいろコアラ講師派遣

- ・ 宇都宮短期大学社会福祉管理運営
- ・ 栃木県立佐野高校講演
- ・ 真岡市婦人会連絡協議会研修会

### そらいろコアラ講師招聘

#### サロンみんなの保健室さま

- ・ 理事長・看護師 渡邊 カヨ子様
- ・ 社会福祉士 涌井様
- ・ 助産師 柴田様

#### NPO法人ピッコラーレ

- ・ 相談支援員浅野しのぶ様（社会福祉士）

#### NPO法人キミノトナリ

- ・ 代表東田美香様

#### 遠見才希子医師（産婦人科）

#### 和田浩医師（小児科医、健和会病院院長）

この他、包括的性教育関連の講演一覧は、p.13を参照

### 第6回「とちぎ次世代の力大賞」

そらいろコアラが大賞を受賞しました！  
(2023年4月)



## 活動報告「そらいろノート」

- ・ メルマガ配信：12回
- ・ 登録者数：170（3月末時点）



登録はこちらから▶  
登録無料！



## その他メディア掲載・取材

- ・ 寺子屋プラス
- ・ 真岡新聞（そらいろKIDSクラブイベント開催・助成金関連）
- ・ 下野新聞（多胎児育児調査報告）
- ・ 下野新聞(コアLINE関連)  
<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/652340?newsletter>
- ・ とちぎのしゅし(団体紹介)<https://tochigi-seeds.com/social-good-023>
- ・ おりっぷ(小山市フリーペーパー・コアLINE関連掲載)
- ・ ミヤラジ(宇都宮市内ラジオ番組)
- ・ FMもおか(真岡市内ラジオ番組)

# 会計報告

## I 経常収益

1 受取会費	
正会員受取会費	95,000
サポーター会員受取会費	246,353
団体サポーター会員受取会費	220,000
2 受取寄附金	
受取寄附金	856,401
3 事業収益	
助成金収入	6,546,278
セミナー等謝礼金	91,000
4 その他収益	
受取利息	57
経常収益計	8,055,089

## II 経常費用

1 事業費	
(1)人件費	
給料手当	2,862,867
講師謝金	35,998
ボランティア謝金	402,300
人件費計	3,301,165
(2)その他経費	
印刷経費	70,668
会議費	1,050
研修費	539,526
雑損費	14,120
雑役務費	4,640
修繕費	299,343
消耗品費	688,026
食材費	192,802
諸謝金	38,000
水道光熱費	138,307
租税公課	1,050
地代家賃	524,000
通勤費補助	217,698
通信運搬費	165,394
旅費交通費	128,598
保険料	33,310
その他経費計	3,056,532
事業費計	6,357,697

(2022年4月1日～ 2023年3月31日)  
(単位：円)

## 2 管理費

(1)人件費	
給料手当	468,300
役員報酬	120,000
人件費計	588,300
(2)その他経費	
印刷経費	21,780
会議費	3,060
雑役務費	38,424
消耗品費	2,288
租税公課	1,440
通信費	29,384
旅費交通費	17,912
その他経費計	114,288
管理費計	702,588
経常費用計	7,060,285
当期経常増減額	994,804
経理区分振替額	0
当期正味財産増減額	994,804
前期繰越正味財産額	4,951,311
次期繰越正味財産額	5,946,115

※2022年度はその他の事業を実施していません



# 応援メッセージ

私たちの活動は、ボランティアや  
スタッフさん、サポーターの  
皆さんに支えられています

## 齋藤 真理 小児科医、そらいろコアラ理事

私の人生には、常に、困難なときは励まし達成すれば一緒に祝う相手がいましたが、長く働く間に、それが当たり前でないことに気付きました。嬉しい発見を伝えているのに応じてもらえない子、おむつがパンパンに湿っているのに取り換えてもらえない子、家族仲が悪くて安心できる場所がない子、そして、その子どもたちの親も同じような体験をしていたこと、うまくできない自分を歯がゆく思っていること。今、そらいろコアラが、こういった子どもや親の困難を支えていることに、頼もしさを感じるばかりです。職場で深く関わり過ぎて、困った親子の生活圏に顔を出せずにいますが、いつも、そらいろコアラの支援が続くように応援しております。



## 木佐美 祥 産婦人科医

日本では、望まない妊娠や、月経困難症、妊孕性などへの誤った認識が根強く残っています。究極的には日本の性教育を変えなければ、と考えますが、まず目の前の悩める人々を少しでも助けるところから始めたいと思い、アドバイザーとして参加しています。日々の相談を拝見すると、顔が見えないからこそ、できる相談もあるのだと実感します。これからも可能な限りお手伝いしたいと思います。



## 人見 (石田) 峰洋 農家

子ども達に遺すに値する未来とは何だろうか？自分が父親になってはじめてそのことを考えました。その視点から自分の周りや世の中を見ると、たくさん問題や課題があるように思えました。気候危機のような大きな問題も私が直接的に関わっている農業とつながっている。子どもや子育てに関わる問題も同じです。自分が直接関わっていないように思えても、それに無自覚であったり、看過してしまえば、子ども達やその子ども達の生きる社会はどうなるのでしょうか。仰々しい物言いになってしまいましたが、私にできることは僅かでも、何かポジティブな変化が起きるかもしれない。自分の立場で、身の回りからできることを考え、可能であれば実践していきたいと思っています。



## 櫃間 晃子 管理栄養士

何を食べるかで、体はかわります (^\_^) おいしく食べて、いっぱい体を動かして、元気に育ってくださいね♡  
子ども食堂からいつも子育て家庭を応援してます。



## 畑山 美也子 看護師

人のお世話は好き、でも、人のお世話にはなりたくない。そんな私でしたが、仕事に育児にと多くの人に助けられ見守られ、今があります。現在、コアラの食事支援のお手伝いをしています。料理が上手なわけでもなく、レパートリーが多いわけでもありません。向こう側に見える笑顔、食べてくれる人のことを思い浮かべながら、食育を意識しつつ、楽しく料理作りをしています。医療現場での気づきを地域へ繋げること、子どもを取り巻く多くの問題から子どもを守り、健全な成長へと見守り寄り添う、子どもの居場所づくりを目指すコアラの活動に、今後も関わっていきたいと思っています。



# 助成金のお礼

2022年度の活動を、助成金で支えていただきました  
ありがとうございます

2022年4月1日から2023年3月31日までに助成金のご支援をいただいた団体を、  
掲載させていただきます。(順不同、敬称略)

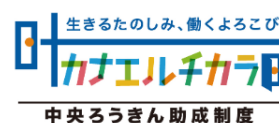
## ■一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）

「とちぎ新型コロナウイルス対応緊急助成事業」



## ■中央労働金庫

「中央ろうきん助成制度“カナエルチカラ”」



## ■日本生活協同組合連合会

「子どもの未来アクション 子どもの貧困支援活動応援助成」



## ■公益財団法人 日本教育公務員弘済会

「2022年度社会福祉助成事業[公募による研修や研究]」



## ■とちぎコミュニティ基金

「子どもSUNSUNプロジェクト助成金」

「たかはら子ども未来基金 学生NPOインターン助成」



とちぎコミュニティ基金

## ■とちぎコープ生活協同組合

「2022年度とちぎコープNPO法人助成金」



## ■NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

「とちぎ地域づくりインターンシップ」



## ■こども食堂サポートセンター・とちぎ (一般社団法人栃木県若年者支援機構内)

「第4回とちぎ子ども食堂応援助成」

Tochigi  
Youth  
Supporters  
Network\*

## ■とちぎゆめ基金

「みんなで作る持続可能な地域づくり・SDGs助成」



とちぎゆめ基金  
2021年助成事業

## ■公益財団法人太陽生命厚生財団

「新型コロナウイルスに関する事業助成」

公益財団法人  
太陽生命厚生財団

# 会員・寄付・物資応援のお礼

ご支援ありがとうございます！

2022年4月1日から2023年3月31日までにご支援いただいた方を掲載させていただきます。  
(順不同、敬称略)

## ■正会員

会沢 紀子 青木 宏統 新井 宏基 飯塚 梓 池田 聖奈 糸井桂子 沖本 舞 加々美 太輔  
齋藤 真理 鈴木 開道 高橋 昭彦 立石香織 仲村 久代 潘 睿 櫃間 晃子 八木澤 明美  
谷田部 典子 山崎 雅人 増田 卓哉 鳥飼 蓬子

## ■団体スポンサー／サポーター会員

株式会社キット ジャパンアグリサービス株式会社  
株式会社ホットスタッフ 一般社団法人えんがお



## ■マンスリーサポーター会員

小檜山 歩 大村 崇寛 川田 雄介 須賀 慶子 杉本 真都 波多野 佑介 浜崎 やよい  
濱野 将行 村山 恵子 森 桜子 森 美智代 林志修 渡部 結香

## ■サポーター会員

江副 一花 熊谷 律子 小島 崇史 小林 賢子 塩野 純子 高松 真里 立石 賢太 徳山 篤  
中垣 喜博 藤井 厚一郎 宮坂 真耶 梁田 良美 矢野 正広 匿名(2名)

## ■寄付

栃木県共同募金会真岡市支会（真岡市社会福祉協議会、「歳末たすけあい募金」）  
真岡市ボランティア連絡協議会、真岡信用組合・那須信用組合・全国信用協同組合連合会・  
（株）オリエントコーポレーション・栃木県信用組合協会（以上、ピーターパンこども基金）  
新井 宏基 板倉 一平 川俣 海瑠 黒田 久子 小林まさえ 小牧 敦子 榊原 理恵子  
高橋 昭彦 浜崎 やよい 人見 峰洋 矢吹 佳子 渡辺 章 コアラ食堂利用者（複数名）  
そらいろKid'sクラブ参加者（複数名） 匿名(複数名)

## ■物品応援

ジャパンアグリサービス株式会社 株式会社ホットスタッフ  
フードバンクうつのみや フードバンクもおか JAはが野（青壮年部、真岡支部、二宮支部）  
こども食堂サポートセンター・とちぎ 宇都宮生協 真岡市社会福祉協議会  
全国農業協同組合連合会 子ども食堂 みんなの台所  
株式会社ファーストリテイリング（TsunAが～るproduced by若草プロジェクト）  
洋菓子のしばの 広田果樹園 きくち果菜園 川澄ファーム めぐりや（株）オオタヤ  
（株）壮関（株）ヨークベニマル 高橋ファーム 細島なし園 ユキヒロファーム落合啓人  
馬場 エルメス 久保 順子 畑山 美也 小出 紀子 土井 由佳・樹・郁子 三村 愛  
ちいさな八百屋 おとなりさん ひげたすみれ 瀬田 昌也 三村 愛 菊地 由美子 八木 弘美  
中川 美佐子 川田 雄介 鈴木 開道 大根田 幹夫 人見 峰洋 櫃間 晃子 伊藤 美南子  
田畑さま 秋元さま 石川さま 廻谷さま 石田さま 小口さま 坂本さま 園部さま  
高松さま 水間さま 星野さま 大澤さま 戸内さま 橋本さま 小林さま 浜野さま  
吉田さま 和久井さま 匿名(複数名)

# ご支援のお願い

私たちの活動は、継続的なご支援に支えられています。



## サポーター会員

- 企業・団体：年20,000円（一口）
- 個人：年3,000円～／月500円～  
（銀行振込／クレジットカード決済）



## 活動資金の寄付

- クレジットカードによる寄付

<http://syncable.biz/associate/Sora-iro-koala/>

- 銀行振込での寄付

金融機関名：住信SBIネット銀行  
支店名：法人第一支店（106）  
口座種類：普通  
口座番号：1526784  
口座名義：トクヒ）ソライロコアラ



## 物品の寄付

生理用品、育児用品や食品、日用品などのご寄付もありがたく受け付けています。  
送付先は、団体までお問い合わせください。

物資例：

食料品、紙おむつ、おしりふき、除菌シート、粉ミルク、ベビーフード、お菓子類、  
生理用品、衣類、書籍、玩具、文房具、調理器具、使い捨て食品容器、台所用品

## ボランティア・スタッフさん募集

一緒に活動してくださる仲間を募集しています。団体までお問い合わせください。

活動例：LINE相談、居場所運営、子ども食堂、親子イベント、広報・会計、他多数！

お問い合わせ：NPO法人そらいろコアラ

✉ [sora.iro.koala.npo@gmail.com](mailto:sora.iro.koala.npo@gmail.com)

☎ 090-3697-2532

